

2021年度 看護系大学生の新型コロナウイルス感染症（COVID-19） ワクチン接種状況等に関する緊急調査結果報告書

2021年7月14日
一般社団法人日本看護系大学協議会

2021年2月に厚生労働省より医療職者のCOVID-19ワクチンの優先接種に関し、医療系学生においてもこの枠でワクチン接種ができるとの見解を確認したところだが、看護系学生のCOVID-19ワクチン接種が進んでいないことを鑑み、接種状況および、これに伴い、2020年度後期以降の臨地実習受け入れ、臨地実習の補完・代替となった学習法について緊急調査を行わせていただいた。その結果について報告する。

I. 調査方法

1. 対象：2021年3月の時点での会員大学285課程および省庁大学校2校 計287課程
(内訳) 国立・省庁大学校44課程、公立50課程、私立193課程
2. データ収集方法：グーグルフォームを用いたWeb調査
3. 設問：2021年度前期の臨地実習科目の履修予定者数
上記予定者のうち1回もしくは2回のワクチン接種終了割合
2021年度前期の臨地実習開始要件
2020年度後期臨地実習の実施状況
2020年度後期臨地実習内容の変更、実施できなかった理由
臨地実習の代替としてのシミュレーション設備の現状
臨地実習の補完・代替の教育ツールの状況（動画教材・模擬患者）
4. 調査期間：2021年4月28日～5月14日

II. 結果

1. 回答数：251課程

(国立・省庁大学校 n=38、公立 n=45、私立 n=166、不明 2) / 会員校 287校

回収率：87.5% (国立・省庁大学校 86.4%、公立 90.0%、私立 86.0%)

2. 同一の設置主体である病院（大学病院等）、その他関連病院の有無

N=251 課程

大学病院・関連病院有	120
無	131

3. ワクチン接種・PCR 検査について

1) ワクチン接種済みあるいはワクチン接種見込みのある課程数

割合	0～10%	21%～70%	71%～90%	91%～ 100%
数	152 (60.6%)	23 (9.2%)	28 (11.2%)	48 (19.1%)

割合	0～10%	21%～70%	71%～90%	91%～ 100%
附属施設あり (n=120)	42 (35.0%)	18 (15.0%)	21 (17.5%)	39 (32.5%)
附属施設なし (n=131)	110 (84.0%)	5 (3.8%)	7 (5.3%)	9 (6.9%)

割合	0～10%	21%～70%	71%～90%	91%～ 100%
国立 (n=38)	11 (28.9%)	5 (13.2%)	8 (21.1%)	14 (36.8%)
公立 (n=45)	27 (60.0%)	3 (6.7%)	5 (11.1%)	10 (22.2%)
私立 (n=166)	111 (66.9%)	15 (9.0%)	16 (9.6%)	24 (14.5%)

この調査は、2月の医療者の優先接種が開始され既に2か月以上経過してから行われたものであった。この時点で、2割以上が接種済みあるいは接種見込みの大学は4割にとどまっていた。特に、自大学内に附属病院・連携病院がある場合は、2割以上が接種済み・接種見込み大学割合は6割強になっているのに対し、**附属施設がない大学**の接種済み・接種見込みの割合は2割弱と接種状況に大きく差がついていた。

4. 2021 年度前期の実習開始要件（複数回答・無回答有）

臨地実習開始要件として実習施設から PCR 検査の指示があったと回答したのが約 6 割であった。設置主体別では私立大学においては 6 割強であった。次に実習施設からワクチン接種を指示される大学は 2 割であり、これにおいても私立大学での施設側からの指示が、他の設置主体よりも多かった。附属（関連）病院を持たない大学がこれらの実習開始要件を施設側から提示されることが多かった。

臨地実習 開始要件	全数	設置主体別				附属（関連）病院の 有無	
	課程数 (%)	国立 38 課程	公立 45 課程	私立 166 課程	不明 2 課程	有 120 課程	無 131 課程
実習施設から PCR 検査指示	147 (58.6%)	14 (36.8%)	26 (57.8%)	107 (64.5%)	1	65 (54.2%)	83 (63.4%)
実習施設からワ クチン接種指示	47 (18.7%)	4 (10.5%)	6 (13.3%)	37 (22.3%)	0	15 (12.5%)	32 (24.4%)
大学側が PCR 検 査を定めた	23 (9.2%)	6 (15.8%)	2 (4.4%)	15 (9.0%)	0	15 (12.5%)	15 (11.5%)
大学側がワクチ ン接種を定めた	5 (2.0%)	1 (2.6%)	1 (2.2%)	3 (1.8%)	0	2 (1.7%)	2 (1.5%)

5. 2020 年度後期の臨地実習状況

臨地での 実施状況	全数	設置主体別				附属（関連）病院の 有無	
	課程数 (%)	国立 38 課程	公立 45 課程	私立 166 課程	不明 2 課程	有 120 課程	無 131 課程
通常どおり実施 できた	18 (7.2%)	6 (15.8%)	6 (13.3%)	6 (3.6%)	0	13 (10.8%)	5 (3.8%)
一部臨地で実習 が実施できた	220 (87.6%)	32 (84.2%)	35 (77.8%)	151 (91.0%)	2	102 (85.0%)	118 (90.1%)
実施できなかつ た	13 (5.2%)	0	4 (8.9%)	9 (5.4%)	0	5 (4.2%)	8 (6.1%)

2020 年度後期になっても、通常通りに臨地実習ができた大学は 7.2%と著しく低かったが、一部は臨地で実習できた大学は 9 割近くあり、オンライン実習を組み合わせたハイブリット型実習等で、少しでも臨地に立つ努力をしたことが窺える。

2020年度後期臨地実習の変更があったあるいは実習が実施できなかった理由(複数回答)

臨地での 実施状況	全数	設置主体別				附属(関連)病院の 有無	
	課程数 (%)	国立 38 課程	公立 45 課程	私立 166 課程	不明 2 課程	有 120 課程	無 131 課程
大学・学部・学科の方 針で一斉に変更・中 止の決定	55 (21.9%)	12 (31.6%)	12 (26.7%)	31 (18.7%)	0	36 (30.0%)	19 (14.5%)
大学・学部・学科の方 針で科目毎に変更・ 中止の判断	122 (48.6%)	20 (52.6%)	20 (44.4%)	81 (48.8%)	1	55 (45.8%)	67 (51.1%)
大学・学部・学科の方 針はなく、各科目で 変更・中止の決定	10 (4.0%)	0	2 (4.4%)	8 (4.8%)	0	1 (0.8%)	9 (6.9%)
実習施設の判断によ る変更・中止	130 (51.8%)	18 (47.4%)	19 (42.2%)	92 (55.4%)	1	58 (48.3%)	72 (55.0%)
実習施設との協議を 繰り返し行う	144 (57.4%)	24 (63.2%)	26 (57.8%)	94 (56.6%)	0	69 (57.5%)	75 (57.3%)

臨地実習に変更があったあるいは実習が実施できなかった理由は、実習施設の判断によるものが多かった。その一方で、大学側が変更・中止の判断をしたという学校も多く、設置主体や附属施設の有無にかかわらずこの傾向があった。大学側が自ら実習変更・中止に至った更なる理由を明らかにする必要がある。

6. 臨地実習の補完・代替教育ツールについて

シミュレーション設備等の現状 (回答数 251 課程) (複数回答)

シミュレーション設備の現状	全数	設置主体別				附属(関連)病院の有無	
	課程数	国立 38 課程	公立 45 課程	私立 166 課程	不明 2 課程	有 120 課程	無 131 課程
十分な設備がある	32 (12.7%)	4 (10.5%)	6 (13.3%)	22 (13.3%)	0	18 (15.0%)	14 (10.7%)
学生数に対し数が足りない・全くない	135 (53.8%)	30 (78.9%)	22 (48.9%)	83 (50.0%)	0	70 (58.3%)	65 (49.6%)
シミュレーション設備使用の準備あり	63 (25.1%)	9 (23.7%)	11 (24.4%)	42 (25.3%)	1	28 (23.3%)	35 (26.7%)
現在のシミュレーション機器に不満	87 (34.7%)	22 (57.9%)	16 (35.6%)	48 (28.9%)	1	44 (36.7%)	43 (32.8%)
シミュレーション活用プログラム準備なし	121 (48.2%)	28 (73.7%)	22 (48.9%)	71 (42.8%)	1	62 (51.7%)	59 (45.0%)

動画教材 (DVD 等) の整備等の現状 (複数回答)

動画教材整備の現状	全数	設置主体別				附属(関連)病院の有無	
	課程数	国立 38 課程	公立 45 課程	私立 166 課程	不明 2 課程	有 120 課程	無 131 課程
十分な設備がある	44 (17.5%)	8 (21.1%)	8 (17.8%)	28 (16.9%)	0	27 (22.5%)	17 (13.0%)
学生数に対し数が足りない・全くない	66 (26.3%)	12 (31.6%)	13 (28.9%)	41 (24.7%)	0	31 (25.8%)	35 (26.7%)
教材を使いこなす環境が整っている	88 (35.1%)	14 (36.8%)	13 (28.9%)	60 (36.1%)	1	46 (38.3%)	42 (32.1%)
現在の動画の内容レベルに不満	110 (43.8%)	22 (57.9%)	24 (53.3%)	63 (38.0%)	1	43 (35.8%)	67 (51.1%)
動画教材を使用した教育プログラムが十分に準備できない	97 (38.6%)	22 (57.9%)	16 (35.6%)	58 (34.9%)	1	49 (40.8%)	48 (36.6%)

模擬患者の活用状況（複数回答）

模擬患者の活用 の現状	全数	設置主体別				附属（関連）病院の 有無	
	課程数	国立 38 課程	公立 45 課程	私立 166 課程	不明 2 課程	有 120 課程	無 131 課程
十分な設備がある	17 (6.8%)	3 (7.9%)	4 (8.9%)	10 (6.0%)	0	8 (6.7%)	9 (6.9%)
学生数に対し数が足 りない・全くない	99 (39.4%)	14 (36.8%)	21 (46.7%)	64 (38.6%)	0	44 (36.7%)	45 (34.4%)
模擬患者のトレーニ ングが十分できない	101 (40.2%)	19 (50.0%)	19 (42.2%)	62 (37.4%)	1	45 (37.5%)	56 (42.7%)
模擬患者活用した教 育プログラムを準備 できない	155 (61.8%)	26 (68.4%)	26 (57.8%)	101 (60.8%)	2	72 (60.0%)	83 (63.4%)

シミュレーション設備については、十分な設備を持っている大学は1割程度であり、シミュレーション施設の準備があると回答した大学も2割程度、さらにシミュレーション教育プログラムの準備もできていない大学が5割であり、シミュレーション教育が臨地実習の補完・代替となるには程遠い。設置主体別にみると、国立・公立・私立とも学生数に対するシミュレーション機器の不足を回答したが、その理由は予算上の問題、学生数の多さなど違いがありそうである。

動画教材（DVD等）の整備についても、十分に整っているとはいいがたく、シミュレーション設備と同等の割合である。動画教材を活用する環境はシミュレーションよりはやや整っているものの、動画教材そのもの内容、レベルには不満を持っている割合が高い。

模擬患者の活用においては、十分な整備とはいえない状況である。模擬患者のトレーニング、模擬患者を活用した教育プログラムにおいて6割が、準備ができていないと回答している。

7. 自由回答等から

・ワクチン関連についての記述

この時期の看護学生のワクチン接種のめどが立たないことに対する訴えが自由記述の中にも多く見受けられた。医療職優先接種の範囲の文章の解釈が、それぞれ異なることから対応が困難になっていた。自治体の解釈、自大学の附属病院、関連施設を持たないことによる問題が浮き彫りになった。

・PCR検査関連費用について

PCR検査の実施による経費負担について、1回ではなく実習先毎に検査を求められ、その費用が莫大になるとの訴えが多かった。

- ・特に PCR 検査を求める施設は老健施設、訪問看護ステーション、保育園、幼稚園、精神科病院等であり、PCR 検査陰性が実習受け入れ条件になっていた。
厚生労働省医政局等から事務連絡が都道府県に医療関係職種の養成等の実習施設への周知事項等について令和 3 年 6 月 10 日付で事務連絡が行われているが、実習機関との実習調整は年度初めから行われているため、この事務連絡が各実習施設に浸透していないことから多くの大学が PCR 検査を受け入れる方向になっていた。しかし、大学の予算として PCR 検査の検査費用をどのように捻出するかなど問題を抱えていた。このこともあり、実習受け入れ施設の受け入れ条件が厳しく、大学側が臨地実習を中止するあるいは、PCR 検査を受け入れ要件としない実習施設探しなど多くの労力を要していた。
- ・臨地実習計画上の課題
コロナの感染状況により、臨地実習が大きく左右されている。緊急事態宣言や、各地域の感染状況、医療のひっ迫状況等を加味して、その施設の考え方で実習の受け入れの是非が決まっている。同じ地区でも受け入れが可能であるところと、そうでない施設があり、それによる臨地実習の延期、施設変更、学内への切り替えなど、2021 年においても 2020 年と同様の実習運営を求められた。
- ・2021 年においても臨地実習を元に戻すことは不可能である。補完・代替の必要性はあるが、その準備状況は十分ではない。ワクチン接種もこの 5 月の時点では看護系学生への接種状況が非常に低かった。7 月現在、様々な接種システムを駆使することで少しずつ接種率が伸びてきているが、希望者全員への接種には程遠い。

以上